

# 消費者教育実践についてのまとめ ～身近なところからの気づきと実践～

兵庫県立神戸高等学校 森 和代 教諭

1 対 象 2年生 普通科320名、総合理学科 39名

2 科 目 家庭基礎（2単位）

3 単 元 名 第2編 生活をつくる 第2章 衣生活をつくる

## 4 単元構想

家庭基礎における「被服分野」は、2単位の中では限定した分野でしか取り組めず、主に基本的事項の確認と基礎縫い（手縫い）、応用実践としての足の測定から「靴選び」での健康的な着用と衣服管理などを行ってきた。しかし、基本的事項は身についておらず、小・中学校通しで実践してきたはずの基礎縫いが出来なくても不都合を感じない生徒が多い状態である。

そこで、基礎縫いを活用した「手作り品の制作」とそこから消費者の視点を育てる取り組みを考えた。

### 【直線縫い、手縫いで作るミニトートバック】

モデルチェンジや学校の統廃合によって作れなくなり廃棄処分にせざるを得ない制服・シャツの端切れを Akashi Uniform Company（大阪支店：吹田市豊津町18-12 TEL06-6337-7900）より提供してもらい、型紙は用いず直線の作業のみ、手縫いの半返し縫い・本返し縫い、まつり縫い、で制作を計画した。ミシンは数が限られており、ミシンの無い家庭が増えている現状では、手縫いができれば生活に生かせる、と考え、一部分のみミシン縫いを行って、マチ付ミニトートバック制作を行う。

## 5 消費者教育の視点

「もの」を作ること、作る過程を知らないから、「もの」が大切にできない、捨てればよい、という短絡的な発想になっているのではないだろうか？もの作りの中にある様々な要素を知ることによって「もの」に対する見方が変わり、「もの」の価値や値段に対する認識が変化するのではないかと考え、取り組んでみた。また、技術はその必要性を感じなければ身につけていかないので、集中力を養い工夫することができるようになるため、あえて時間をかけて体験し、自身の自覚で技術獲得を目指す、ということも目標とした。

## 6 消費者教育体系イメージマップの位置づけ

- 生産・流通・消費・廃棄が環境、経済、社会に与える影響を考えよう
- 持続可能な社会を目指して、ライフスタイルを考えよう
- 身近な消費者問題及び公正な社会の形成に協働して取り組むことの重要性を理解しよう

## 7 指導目標

- ① 「もの」を一から作ることにより、出来上がる過程を理解する。また、必要な技術・知識を身につける。
- ② 服の入手と取り扱いから処分について衣生活の流れを理解し、豊かな生活とは何かを考えるきっかけとする。
- ③ 衣生活における資源・エネルギー問題にはどのようなものがあるかを知り、環境に配慮した衣生活を考える。

## 8 評価規準

関心・意欲・態度	衣生活や自分の生活環境に関心を持ち、その充実向上に主体的に取り組み、資源・環境についても考えようとしている
思考・判断・表現	自分自身の被服や生活環境の中の課題を見出し、その解決を目指して考え、工夫への取り組みを表現しようとする
技能	衣生活の維持向上のために必要な基礎・基本的な技術と活用方法を身に付けている
知識・理解	被服管理について理解し、資源の有効利用の観点から購入活用、再利用の必要性を考え、消費者としての責任や地球環境を考えた行動の重要性を理解している

## 9 指導計画

学習内容	学習活動	学習支援の目標	評価観点
<b>1 学期</b> ○文化祭を終えて考えよう ・ゴミについて ・リスクと責任  ・消費者の義務  ○調理実習でのゴミの量	・文化祭模擬店での様子や活動を振り返り、ゴミの状況について知る。 ・ゴミの発生と地球温暖化の関係についてDVD、資料集等で学習する。 ・文化祭で食中毒等の事故が発生した場合の責任について「ワークシート『身のまわりのリスクとその備えについて学ぼう』より考える。 ・消費者の義務と責任、関係する法律について、知る。 ・特別非常勤講師による調理実習「オムレツ」でのゴミの分別と計量を行い、ゴミを減らす方法を考える。	・自分たちの活動の中に、様々な人の支えがあり、また、周囲への影響があることを知る。 ・「何か活動があれば、その中にはリスクも発生し、それに対して責任が生じる」ことを認識する。 ・消費者として、関連する法律があり、それらを守り実行する義務があることを知る。 ・調理実習での工夫がゴミ軽減に反映されることを数字で確認する。 ・環境家計簿のCO <sub>2</sub> 計算より、ゴミによるCO <sub>2</sub> 発生量を認識する。	関心・意欲・態度 知識・理解   思考・判断・表現 技能
<b>2 学期</b> ○ミニトートバック制作より考える	・制服の残布を用いてなるべくゴミを出さない「トートバック制作」を行う。 ・出来上がった「トートバック」を基に、「もの」の値段や製品を選ぶ視点について知り、自分の生活について振り返る。 ・被服関係のゴミの多さより環境への影響を考える。	・布の扱いや活用方法、整理や物の管理などよりゴミを出さないことへの認識を促す。 ・実際に作ったものの「相互評価」により「選ぶ視点」の認識を深め、「安いもの」の裏側にある状況に対して関心が向けられるようにする。	関心・意欲・態度 知識・理解 技能
<b>3 学期</b> ・よりよい消費者となるためには？ ・ゴミを減らす調理実習（伝統食を通して）	・現在の生活の中での「食」についての問題点について知り、災害への備えや食の自立より、「エコ・クッキング」「地産地消」を取り入れた「伝統食を活用したお弁当実習」の計画、実習を行う。 ・消費者としての「義務と権利」について再度学習し、消費者としての自覚の必要性を認識する。	・身近な所に様々な問題があること、消費者として問題点を認識し、その改善に取り組む必要性を認識させる。 ・消費行動の及ぼす影響について考え、法律を知ることや正しい状況を手に入れることの重要性について認識を深める。	関心・意欲・態度 知識・理解 技能

## 10 学習指導過程

### (1) 制作前の学習（中学校までの復習を兼ねて）

	授業の内容	生徒の活動	評価規準	プリント、等
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>衣生活についての基礎知識の確認をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡単な基礎問題を解いて、衣生活に関しての基礎的知識を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>衣生活に関する基礎的な事柄がわかる 【知識・理解】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「衣生活基礎問題」…口頭で質問</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>繊維製品や洗濯などの表示について理解をする。</li> <li>衣類が制作される基本的な事柄について、布を扱いながら理解を深める。</li> <li>手縫いの基礎縫い、ミシン縫いの正しい方法について理解する。</li> <li>実際に、さらし布を用いて手縫いを行い、基本的な縫い方を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実際に制服や体操服などの表示を見て、その意味について発表する。</li> <li>取扱い絵表示の改訂について知る。</li> <li>さらし布を用いて、布の構造、繊維について、布の扱い方について理解し、基礎縫いをするための布端の処理を行う。</li> <li>DVD「被服制作の基礎」を視聴し、糸の扱い、基本的な手縫いの正しい方法を知る。</li> <li>さらし布の両端を三つ折りし、「半返し縫い」「まつり縫い」を行う。 (方法が理解しづらい、又は、授業内で完成できない場合については、個別に指導し、家庭での練習課題とする。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な表示に関心を持ち、その意味について正しく表現できる 【思考・判断・表現】</li> <li>布の構造を理解し、必要な技術を用いて布端の処理を行うことができる 【技能】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プリント教科書 新テーマスタディ 家庭科</li> <li>DVD「被服制作の基礎」教育図書</li> <li>さらし布（30cm長さ）</li> <li>木綿手縫い糸（赤）</li> <li>裁縫セット</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎縫いしたものを、アイロンかけや提出方法の注意点を理解して美しい状態に整えて提出する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>木綿製品のアイロンかけ温度を理解し、布の方向や折り目、縫い目に注意してアイロンかけを行う。</li> <li>基礎縫いの作品提出において、必要な事柄を理解して、美しい状態で提出作業を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>木綿の扱い、作品の状況に応じて正しい対応を行うことができる【技能】</li> </ul>	

### (2) ミニトートバック制作…別紙プリント

※細部については、板書、見本を使用し説明等で、制作方法を指示していく

#### <ミニトートバック 生徒作品>



(後ろ側 マチの部分)



表布にシャツ生地の裏布を合わせて、紐・ポケット部分を取る



<被服制作風景>



(3) 発展的取り組み

作ったトートバックを用いて、客観的に作品を評価し、「製品と価格」「リサイクルとゴミの問題」など、消費者としての観点や環境に配慮した実践活動について広範囲的にものを見る、ということに取り組む。

	授業の内容	生徒の活動	評価規準	プリント、等
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制服の取扱い絵表示はどのようなものか、確認する。</li> <li>・制服の手入れなどを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制服の端切れ、ということで、取扱い絵表示について、自分の制服の表示を調べ、取扱い方法を確認する。</li> <li>・実際に、どのように制服を扱っているか、手入れや洗濯方法を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制服の取り扱いについて表示を理解し、実践することができる</li> </ul> <p>【知識・理解】</p>	「制服」布の取扱い絵表示
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トートバックの客観的評価を行う。</li> <li>・制作時間と時給、材料費などで価格計算をする。</li> <li>・客観的評価と自分の作品に対する思いを照らし合わせる。</li> <li>・市販品と手作り品の比較</li> <li>・100円均一の物や安売りの物はなぜ、安くできるのか？考える。お互い意見交換する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・完成したトートバックを交換して、友達の商品の各項目の評価をする。価格評価も行う。</li> <li>・制作を振り返り、制作時間に自分の設定した時給を掛け、材料費など加えて費用を計算してみる。</li> <li>・人に評価されたものを見て、自分自身の作品について振り返り、「製品」とはどのようなものなのか？考えてみる。</li> <li>・100円均一の製品や安売りされているものと比較してみて、どのような違いがあるか考える。</li> <li>・なぜ、100円均一の物や安売りの物はそんなに安くできるのか？考えてみる。お互いに意見を交換する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手縫い、ミシン縫いの正しい方法がわかり、美しい製品を判断する能力が養われている</li> </ul> <p>【技能】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント</li> <li>・「トートバック評価票」</li> <li>・各自の「トートバック制作工程票」</li> <li>・アルバイト、求人広告の賃金表</li> </ul> <p>(比較用)</p> <p>100円均一のバック (洗濯したもの)</p> <p>エコバック チェック柄生地 キャラクター柄生地</p>

	授業の内容	生徒の活動	評価規準	プリント、等
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の作ったものについて、改めて感じたことをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>改めて、自分の作ったものについて見てみて、100円均一や安売りの物との違いを調べ、感じたことをまとめる。</li> </ul>		
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ものの値段、価値、安いものの背景など、見えない部分にあることを知る。</li> <li>「技術」を磨き、「もの」を見る目を養うことで、自分の生活に生かせることを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>制服（端切れ）と100円均一などの製品を触って比較し、制服の布の丈夫さを確認する。</li> <li>安いもの、の材料や制作賃金はどう設定されているか、考える。</li> <li>製品を作るため必要な技術、価格設定について考えをまとめる。</li> <li>自分の技術を上達させる方法、生かす事柄を考えて、今後の生活へ活用することを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品の価格設定についてや端切れの処理などの現状についての理解を深め、自身の生活の向上に対してどう取り組むべきか考え、意見をまとめる</li> </ul> <p>【関心・意欲・態度】</p>	教科書 新テーマスタディ家庭科



## 11 生徒の反応（感想、授業時の様子）

### 〔ミニトートバック制作より〕

- 一枚の平面の布から立体のバックが仕上がっていくのが不思議で、おもしろかった！こうやってものが作られていくのだ、とわかって楽しかった。服とか他のものもどうやって作られているのか、知りたいと思った。
- いろんな知識が必要なんだと思った。布を扱うこと、折って形を作ること、アイロンをかけること…等々、物理や化学、数学の知識が入っていると実感できた。布に縦横がある、縦と縦を合わさないと力の方向でずれてくる…なんて初めて知った。
- 最初が肝心！というのをすごく実感した。多少ずれていても関係ないじゃん、と思っていたら、その少しのズレが、後にいくほどボディプルーのように効いてきて、最後はとんでもないことになってしまった！きちんとする、ということの意味がわかった。
- ミシンでやればいいのか？！と思った。でも、ミシンをセットするのが大変で、まして、mm単位で縫っていくことが結構難しかった。手縫いは、面倒くさい、と思っていたが、すぐに縫えるし、慣れてくるとだんだん目がきれいになり、調節しながら縫えるから、目がそろってきたらうれしかった！
- 小学校では小さなものをコチョコチョと縫っただけで終わりだったし、中学校は、ミシンをセットしてあり、ただ決められたところを言われた通り縫うだけだった。ものを作った、っていう実感はなかったけど、今回、一からバックを作っていくって、ものを作るってこんなに大変なことで、

技術や準備がすごく必要なんだ、とわかった。

- 自分じゃうまくできた、と思っていたけど、仕上がったのを友達と見比べて、色んなアラが見えてきて、もっと上手にすればよかった、と思った。でも、苦勞して作ったから、自分だけのもの！っていう実感があり、すごく愛おしくて、使っていきたい、と思う。
- プリントを読んだり、説明を聞いても理解しがたく、基本的な知識の無さを痛感した！でも、わからないことを友達に聞いて教えあったり、自分がわかったことを友達に説明したりしたら、理解が深まり、友人ともコミュニケーションもすごくできた！ 友人たちと協力して実習できたのがよかった。
- いつも、靴下が破れたらほかしてしまったり、シャツのボタンが取れたら親に渡していたけど、自分でこうやって縫うことができるようになったから、ほかさずに縫ってもっと使ってみよう、と思う。

#### 〔制作を終えての『発展的取り組み』より〕

- 既製品や大量生産のものって、どうやって作っているんだろう？と不思議になった。ミシンとかの道具もすごいんだろうなあ？ それらを使っている人の技術もすごいんだろうな?! でも、安いもの、ってどうやって作っているんだろう？ 100均のものの値段が不思議だ？ モノの裏にあることって何だろうか？と思う。
- 安ければいい、と思っていたけど、手作り品と大量生産品では、違いがあるんだ！ ものを見る目、って難しいと思った。
- 製品を安く作るために、人件費の削減が一番多い要因であるように思える。大手洋服メーカーのように国内の人員を用いるのではなく、海外（特に東南アジアなど）の人員を用いると人件費が安くなる。また、作る人のレベルによっても人件費が異なってる分、大量生産を行うには熟練した人を用いるのは難しくなる。よって、手作りのものよりも縫い目が荒くなったり、長持ちしなかったりと、問題もある。さらに、安い人件費ゆえに不当な労働条件で働かされているという問題もあるので、考えなければならない。
- 利益を得るためには、人件費や材料費などをできるだけ削らなければならないと分かった。UNICLO や GU などの比較的安価な製品は、東南アジアなどの人件費が安い所で、工場を建設して作っているからだと思う。また、安い製品は品質も落ちることがあると思うので、値段だけを見て製品を買うのではなく、長く使える製品を買う方がよいと思う。
- 市販のものが、私が作ったものより安くて質が良い理由は、機械で大量生産したり、技術が圧倒的に高い人が作っているからだと思う。私は今、このバックと同じ形のものを使っているが、多分、これよりも安い労働力で作られたと思うが、とてもきれいで気に入っている。100均で作られているのも安くていいけど、やはり、少し高くても丁寧に作られたものを使いたいと思った。
- 高い技術で作られた製品は価値が高くなる。安い品は、人件費や設備へのお金が少ないことが多い。普段何気なく買っている製品にはいろいろな関わりがあることが分かった。

## 12 評価（成果と課題）

もの作りを通して、生徒たちにはそれなりの達成感が得られたように思う。時間をかけて指導することが厳しい、といっても、時には辛抱強く、生徒と向き合っていくことも、技術定着のためには必要であると思えた。しかし、そこから発展して、ものを選ぶ目や流通の背景、消費者としての自覚を育てるためには、資料や指導の過程を工夫する必要があることも痛感した。ただ単に、教科書や資料を説明するだけでは理解が広がらない。経済や社会情勢、歴史的な背景なども踏まえて、発展的に説明の中に取り入れてやると、生徒自身がそこから関心を広げ、ものごとを見ようとすることは生徒自身の「力」の成長であると思う。

予定していた時間より指導を要したことも反省点である。特に、ミシンのセットや糸調子の調整を指導することが難しく、小中学校で経験してきた分野である、と一律に考えることは厳しい。中学校までの過程であっても、その事柄が身に付いているか？ということも確認しながら授業を進めることが必要であると思う。

制作を通して生徒自身が学び、得たものから考えを広げていけることは、生徒にとっても重要な経験になったと思う。説明を聞きながら、生徒が、「これ、数学の応用やね？」「こんなところに、理科の知識が役立つのか??」「社会の授業って、別だと思っていたけど、家庭科とも関係あるんや！」などの反応が得られると、家庭科が総合的な教科である、との認識が深められた。

消費者教育は、すべての事柄に通じ、様々な問題を考える土台となる。それをどのように組み立て、発展させていくことができるか、教育をする側の姿勢が大事である、と今回の取り組みを通して再認識させられた。ほんの少しのきっかけから生徒たちは自分が社会に関わり、社会の中の一員であるとの自覚を持つ。自分たちの行動がどのような社会を作るかの自覚をもたせ、「責任ある消費者」と成長していくことができるように、生徒自らが学び、発展性を持たせた取り組みを行うことが重要であると思う。

## 13 使用教材・参考資料

教科書 家庭基礎 ―パートナーシップでつくる未来―（実教出版）  
新テーマスタディ「家庭科」（東京書籍）

### 【参考資料】

- 明石被服興業株式会社（現、Akashi Uniform Company）と京都府立洛北高等学校 竝川幸子教諭による「環境に配慮した（制服の端切れを利用）ミニトート制作」
- プリント 西脇高校「播州織で作る手さげかばん」
- レディブティックシリーズ「型紙なしですぐ作れる 直線ぬい布こもの」（ブティック社）

<ワークシート>

【トートバック評価票】

評価者名 \_\_\_\_\_

紐	ポケット	袋 口	マチ・虫止め	全 体	コメント

◎ あなたが買うならいくらで? \_\_\_\_\_ 円

★評価を受けて考えてみよう 2年 組 番 名前 \_\_\_\_\_

◎ 完成までにかかった労力はいくら?

時給 (自分の設定した金額) × 時間 ⇒ \_\_\_\_\_ 円

◎ 材料費がいくら必要だった? (使った材料は何々?)

◎ 市販品と比べてみたら?

◎ 発展と考察 (技術と価値、安い品のその理由…などから考えよう)

【裏面に、質問に対して答える】

○あなたが洋服を買う場合

①予算はどれくらい?

②どこで買うの?

③購入するポイント、買うことを決める要因は?

④試着はする? (通信販売の場合、届いたらすぐに試着するか?)

⑤着られなくなったら (着なくなったら) その服はどうするの?

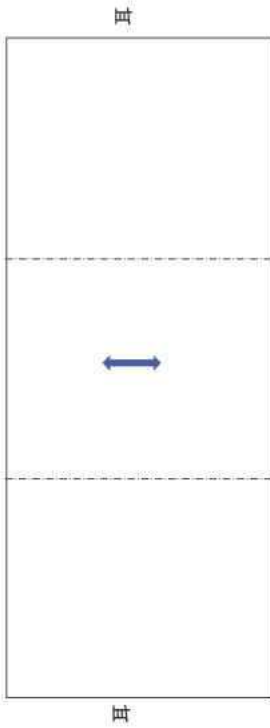


## ミニトートバック制作

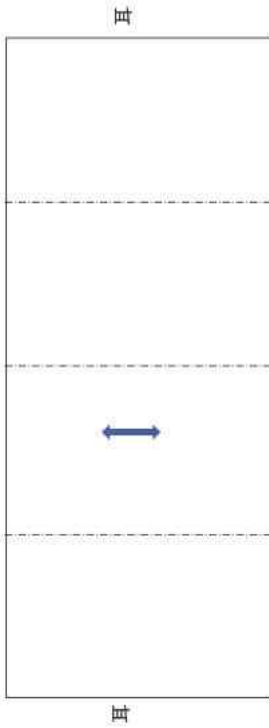
### I. 布の裁断と材料の準備

1) 布を裁ち、各自材料を袋にセットする。袋には名前を書いておくこと。

○ 表布 155cm × 55cm ⇒ 三等分(約51cm × 55cm が三枚) ※布の厚みを考え切る



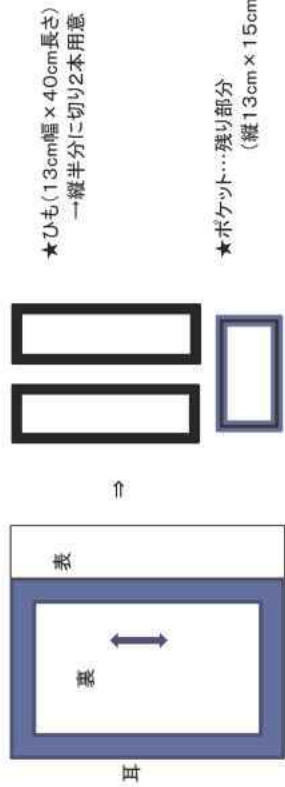
○ 裏布 155cm × 55cm ⇒ 四等分(約38cm × 55cm が四枚) ※布の厚みを考え切る



★ 各自、表布1枚、裏布1枚をセット。「耳」のある表布には「耳」のある裏布をセットする。

<材料> 表布1枚、裏布1枚、アイロン接着芯(4cm × 40cm)2本  
手縫い用糸 一巻(名前を書いたシールを貼っておく)

2) 表布と裏布を重ね、残り部分(約13cm × 55cm)を計って裁断



### II. 縫製

1) ひもを作る

① 接着芯をひもの裏側中央に置き、アイロン(中温)を上から当てて、貼る。

② 中央で折る。

③ 中心線より2cmのところ印を付けて、両端の布端を中に縫り込み、出ま上がリ幅2cmに整える。

④ まち針を打ち(しつけを掛け)両端2mmのところを端ミシンをかける。  
※同じ方向にかける

⑤ 糸端は両端とも5cmずつ残り、糸始末をする。  
→ アイロンをかけて整える。



2) ポケットを作る

① ポケット縦部分を内側に1cm印を付け、折る

→ アイロンをかける

※上・下部分は少し中に入れて折る。

② ポケット横部分を内側に1cm印を付け、折る

→ アイロンをかける

※上・下部分は少し中に入れて折る。

③ ポケット口の部分をさらに2cm折り、1cm・2cmを三つ折りを作る。

④ 全体しつけをかけ、三つ折り部分をまつり縫いで止める。

⑤ しつけを取り、アイロンをかける。

3) 袋の形作り、ポケット付け

① 表布を中表に折り、両端(縫い代1cm)をミシンで縫う → 縫い代はアイロンで割る

② 裏布を中表に折り、両端(縫い代1cm強)をミシンで縫う → 縫い代はアイロンで割る

※裏布「耳」の部分は、裏に「耳」が出ないよう、少し中を縫う。

表布の縫い代を増やした分は、裏布も少し小さめに縫うこと。

③ 表布の適した位置(横・下4cm、上2cm強の「まち」と折り込みを考慮して位置を決める)に

ポケットをまち針・しつけで止め、半返し縫いで縫い止める。

ポケット口は二度縫いして、しっかり縫うこと。

☆☆ ポケットと表布の縦のライン、横のラインをよく見て合わせ、ずれないように、

美しい位置を決めると良い。

4) 「まち」を作る

① 表布、裏布、それぞれを中表にして底中心線の折り目をつけ、脇縫い線と

底中心線を重ね合わせて三角形を作り、

底の両端部分を中心4cm・右に4cm・左に4cmの直角二等辺三角形を描く。

「まち」部分を決めて、印を付けて折り、アイロンをかける。

② 「まち」部分を半返し縫いで縫い止める。

③ 三角形の先端部分を下中央線の方に折り、まっすぐきちんと止めたら、

先を「虫止めする。」

④ 表布、裏布、それぞれ「まち」を作ったら、アイロンをかけ全体を整える。

※表布、裏布、それぞれのまち寸法がすべて同じであること

5) ひもをつける

① ひもを表布の裏側にしつけ糸で仮止めする。

(1) ひも端を袋口の布端にそろえて、下向きに置く

(2) 出ま上がリ線から左右10cmずつの位置にひもの外側がくるよう、

中央線からも等間隔に位置を決める

② ひもを表布にしつけ糸1本どりでしつけ糸を止めるか、不安定なら2本どりで仮止めする。

③ 布端から2cmのところ印を付け、本返し縫いで止める。

袋口から2.5cmのところ印を付けておく。

※ 中心線、出ま上がリ線からの寸法をきちんと計る

※ ひものねじれが無いよう、まっすぐにごくこと

被服制作 評価

- A 大変良くできている  
 B できているが、少々不備がある  
 C できたが、問題部分あり  
 D がんばって作ったが、不完全・不十分(縫い方・方法)  
 E 縫えていない、外れている！やり直し必要!

1. ポケット・縫い付けの状況  
 ポケット・縫い付けの状況  
 縦・横のゆがみが無いか？  
 平らに、まっすぐ、正しく付いているか？  
 縁からの縫い代が適切か？  
 ポケット口がきちんと止まっているか？  
 ポケットの大きさが正しいか？
2. マチ作り  
 マチ部分がきちんと作られているか？  
 半返し縫いが正しいか？  
 「虫止め」が底中心線に止まっているか？  
 ゆがんだり、ずれたりしていないか？
3. 紐付け・形作り  
 紐幅が適切か？  
 紐の端ミシンがけが適切か？  
 ミシンの目が正しく、美しいか？  
 紐付け、紐位置が正しいか？  
 中心、脇、マチが合っているか？  
 裏布の折り込みが適切か？

4. 仕上がり・完成  
 ○袋口のまつり縫いが正しいか？  
 ○半返し縫いの方法が正しいか？目がそろっているか？  
 ○袋口のゆがみが無く、美しく仕上がっているか？  
 ○紐が正しく縫いつけられ、しっかりと止まっているか？  
 ○全体の仕上がりが美しく、糸始末、アイロンがけ等、正しいか？

進捗・出来栄え点検票

2年 組 番 名前

項目	ポケット・ ポケット付	マチ作り	紐付け・ 形作り	仕上げ・ 完成
提出日	月 日 月 日	月 日 月 日	月 日 月 日	月 日 月 日
チェック				
注意事項				

★ 作品に安全ピンで付けて提出  
 ★ 自己評価に必要！無くないこと！！

- 6) 袋の形に仕上げる  
 ① 表布を裏返しにし、そこに表向きにした裏布の袋をセットする。  
 ② (ア)表・裏の中心線 (イ)「まち」部分、(ウ)脇の縫い代線、  
 (エ)底中央線を合わせてまち針で止め、袋口を合わせる。  
 ※縫い代は広げて合わせる  
 ③ 裏布の袋口を2.5cm折り込んでひもを上にあげ、アイロンをかける。  
 ④ 裏布の袋口を裏布の袋口より1~2mm控えた形で折って、裏布と裏布を合わせる。  
 ⑤ 裏布を表布の中に入れて、脇、「まち」を合わせ、袋の形を整える。  
 ⑥ 袋口のズレ、はみ出しが無いかを見て、アイロンをかけ、全体をしつけ糸で止める。  
 ⑦ 袋口をまつり縫いで止める。

- 7) 袋の仕上げ  
 ① 袋口から2cm下のところを刺繍糸でバックステッチをかける。  
 ② ひもの下の部分がバックステッチで止まるように縫っていく。  
 ※ 模様様の積線を真ながら、まっすぐに縫うこと  
 ③ しつけ糸を取り、全体を点検してアイロンをかける。

◎ 自己評価と反省・感想

- 器具、ミシンの用意と片付け、物の管理ができたか
- 手縫い(半返し縫い)が正しく、美しくできたか
- 布の扱い、管理ができて、布に応じた手入れ方法が理解できたか
- 立体の構成がわかり、作り方が正しく理解できたか
- 説明や板書、見本などをメモし、重要な事柄が整理できたか
- 自分自身の活動が自発的に行えて、進捗に合わせた実習が計画、実践できたか
- 自己の技術の向上から友人への技術伝達、指導ができたか
- 自分自身が気づいたことをまとめ、発表し、お互いの意見交換ができたか

◎ 他者評価、相互評価

◎ 被服の管理と現在の被服事情について…「発展と考察」

【感想と考察】